

FDT グループプレスリリース

FDT グループについて

FDT グループは、主要国際企業で構成されたオープンで独立した非営利法人であり、オートメーション業界において広く受け入れられる国際標準として、FDT 技術を普及させる活動をしています。2003 年、ABB、Endress+Hauser、Invensys、Metso、Siemens により、非公式団体として発足しました。その後、独立法人として正式に設立されることが決定され、2005 年 9 月、ベルギー法に基づき非営利組織 (AISBL) として「FDT グループ」が発足しました。2011 年 6 月現在、ファクトリー・オートメーション、プロセス・オートメーション産業から 88 の企業 / 団体 / 大学が所属しています。

FDT について

FDT は、あらゆるフィールド機器とホストシステム間の通信および設定インターフェースを標準化する技術として誕生しました。FDT は、機器の最も高度な機能にアクセスするための共通環境を提供します。機器メーカー、機種、通信プロトコルいずれも問わず、どんな機器も標準化されたユーザーインターフェースにより、設定、操作、保守を行うことができます。

FDT グループ日本支部について

FDT グループ日本支部は 2006 年から活動を行っております。日本支部においては、年に 1～2 回開催するエンドユーザセミナーを中心に、FDT 技術の普及活動を行っております。2011 年 4 月時点で 16 企業が活動を行っております。

FDT 日本支部長：内山 修（所属：アズビル株式会社）

アクティブ会員

ABB 株式会社、アズビル株式会社、インベンシスプロセスシステムズ株式会社、株式会社 NSD、M&MSoftware、エンドレスハウザージャパン株式会社、オムロン株式会社、ガイロジック株式会社、ザムソン株式会社、TURCK Japan 株式会社、東京計装株式会社、日本モレックス株式会社、株式会社ピーアンドエフ、三菱電機株式会社、メッツォオートメーション株式会社、横河電機株式会社（五十音順）

コンタクト先：安達 治（所属：TURCK Japan 株式会社：osamu.adachi@turck.com）

FDT グループ プレスリリース（日本語版）

2012. 5. 11

1. FDT2 公式リリース
2. 無線規格の ISA100 用アネックスの開発をスタート
3. SERCOS III アネックスを正式リリース
4. 新たにファクトリーオートメーション分野向けの FA アネックスをリリース
5. FDT2 の共通コンポーネントをリリース
6. FDT インド支部発足
7. FDT グループと OPC ファウンデーションによる相互運用性デモ
8. 全テストセンターの第三者機関による監査終了

1. FDT2 公式リリース

FDT グループは待望の FDT2 が本日、公式にリリースされたことを発表しました。FDT2 では、これまでの規格との完全な下位互換性を維持しながら、エンド・ユーザによって要求された多くの重要な新機能を搭載しています。FDT グループはまた FDT2 対応製品の開発が迅速に行える共通コンポーネントと呼ばれる包括的なツールキットをリリースします。FDT2 の仕様は www.fdt2.org ですぐにダウンロードできるようになりました。FDT グループは、会員企業により FDT2 対応製品が 2012 年末までには発表されると見込んでいます。

FDT2 の機能強化は、ユーザやサプライヤにより行われたものです。新しい仕様は、ユーザに対して、バックグラウンド処理、バッチタスクと平行したリアルタイムモニタリングのサポートを提供しながら、大幅な高速化と全体的に改善されたパフォーマンスを提供します。これに加えて、セキュリティの強化、PLC の統合と、ほとんどすべての主要なファクトリーオートメーション及びプロセスオートメーションの通信ネットワークのサポートを提供しています。サプライヤに対しては、.NET と Microsoft Visual Studio において、デバイス開発環境を提供します。

“ここ 3～5 年のオートメーション業界における最も重要な進歩です”、Glenn Schulz、FDT グループのマネージングディレクターは、述べています。“我々の 85 の会員企業は、この新しい仕様の策定に資金を供給し、25 以上の会員企業がこの新しい仕様を可能にするために最高の技術力を提供しました。FDT2 の仕様は徹底的に世界各国の会員企業によってテストされています。我々はこの新しい仕様がすぐに公開されることを嬉しく思っています。”

FDT2 のリリースに加えて、FDT グループは FDT2 ベースの製品を開発する Visual Studio で使用するための“FDTEexpress”と呼ばれる新しい開発環境ツールキットをリリースしました。FDTEexpress は、無償で一般に公開されています。

ARC アドバイザリーグループは、“ FDT2 Primed for the Future ” と題した FDT2 に関する報告書を発表しました。これは ARC または FDT グループのウェブサイトからダウンロードすることができます。※英語版のみ

全ての FDT2 の仕様、FDTEExpress ツール、および他の FDT2 関連資料は、FDT グループのウェブサイトから今すぐにダウンロード可能です。詳細については、www.fdt2.org をご覧ください。

2. 無線規格の ISA100 用アネックスの開発をスタート

FDT グループは、ISA100 WCI との間で ISA100.11a 無線規格と FDT スタンダードとの互換性を追加することで合意したと発表しました。FDT スタンダードのアネックス作成のために FDT グループ内に両組織からの技術メンバーが参加するワーキンググループが結成されました。

“ISA100.11a は多くの FDT グループ会員会社が採用している無線規格である。市場は、重複を避けるために包括的な基準を求めており、我々は FDT スタンダードのマルチネットワーク統合プラットフォームの魅力をさらに豊かにする ISA100.11a 無線規格の追加を望んでいる。” FDT グループのマネージングディレクター、Glenn Schulz は述べています。“組み込むネットワークの数に制限のない FDT スタンダードは、アネックスの追加という再リリースの必要がない方法によりこれに適応可能であり、既存のプラットフォームに対する適合性も満足するであろう。”

ISA100WCI のマネージングディレクター、Andre Ristaino は述べています。“ISA100.11a 無線規格の採用は世界中で急速に広がっています。我々は界で広く認知されているこの FDT という統合プラットフォームに ISA100.11a 無線規格を追加するための、FDT グループとの提携に満足している。我々はこの統合を、ベンダーにとっては ISA100.11a 適合製品の市場への素早い投入のための、ユーザにとってはそのベネフィットをいち早く享受するための有効策であると認識しています。”

Mr. Ristaino は ISA100.11a アネックスが 2012 年の中盤に正式にリリースされると推察しています。これに興味のある企業は ISA100WCI 又は FDT グループにコンタクトすることが出来ます。

3. SERCOS III アネックスを正式リリース

FDT グループは、SERCOS III をサポートする、SERCOS III アネックスをリリースしました。SERCOS III はファクトリーオートメーションで用いられているイーサネットベースのリアルタイムデジタル通信です。

“FDT スタンダードへの SERCOS III アネックスの追加は、我々のファクトリーオートメーション市場へのコミットメントを強調しています。SERCOS は、ファクトリーオートメーション市場において複雑で高速を要求されるリアルタイムコントロールの解法を長年に渡り提供し

ています。我々はFDTスタンダードへのこの可能性の追加を大変喜んでいます。“FDTグループのマネージングディレクター、Glenn Schulzは述べています。

FDTのSERCOS IIIアネックスは、SERCOSサービスチャネル通信をベースとした、オンラインサービスをカバーし、また、簡単に拡張可能なデバイスアクセス機能が提供されます。それはSERCOSコンフィギュレーションインターフェイス（SCI）をサポートし、また、エンジニアリング・システムのプロセス情報チャネルの提供を含む、SERCOSネットワークのオフライン設定を可能にします。

ボッシュ・レックスロスとヒルシャーは、SERCOS III製品をFDTフレームで扱うことができる、汎用的な機器DTMと通信DTMのリリースを発表しました。

4. 新たにファクトリーオートメーション分野向けのFAアネックスをリリース

FDTグループはPLCプログラミングツールのサポートを特徴としたファクトリーオートメーションアネックスのリリースを発表しました。このアネックスはフィールドバスに依存することなくPLCエンジニアリングツールがIEC61131-3プログラム内の変数にI/Oシグナルをマッピングできるインターフェイスを提供しています。

“FDTスタンダードを組み込んだファクトリーオートメーションアプリケーションの大幅な成長は、私たちをより多くの、FA分野のベンダーやエンドユーザをサポートする多くの機能を追加することに目を向けさせた。” FDTグループのファクトリーオートメーションマーケティングのManfred Brillはコメントします。

このアネックスにより、各機器DTMでI/Oチャネルを設定することで、PLCマスタ上にデバイスのプロセスデータがマッピングされ、アクセスできるようになりました。PLCツールインターフェイスで機器DTMとマスタ通信DTMとの間で設定を共有できるようにしたものです。FDTファクトリーオートメーションアネックスは、ボトム・トゥ・アップアプローチを可能にしました。これはバスマスタの通信DTMの立ち上げ前に、各々の機器DTMでI/Oマッピングを行う手法です。また、このアネックスは複数のインターフェイスが混在する環境で、特定のフィールドバスインターフェイスを識別する手法も提供します。

5. FDT2の共通コンポーネントをリリース

FDTグループはFDT2に対する共通コンポーネントのリリースを発表しました。FDT2の共通コンポーネントは、FDT2仕様を実装するために必要なソフトウェアの大部分を提供しています。共通コンポーネントを使用すると、開発者は効率的にFDT2対応製品を開発することができます。これによりメーカー独自の付加価値の開発に時間を割くことができます。

FDT2のための共通コンポーネントは、2012年5月の終わりまでに使用できるようになります。“会員企業はFDT2対応製品の開発において、コスト面においてもより効果的に製品開発を行

うことが出来ます。”、シュナイダーエレクトリックのManfred Brillは指摘します。“我々は、2011年以來会員企業20社において、何千回にも渡るテストを共通コンポーネントに対して行ってきました。この厳しいテストはFDT2の共通コンポーネントの品質を保証するために行われています。”

“我々はフレーム・アプリケーションに対するFDT2共通コンポーネントのプロバイダとして選ばれたことに非常に満足しています。”M & MソフトウェアのVolker Herbstが述べています。“共通コンポーネントに対する広範なテストは、共通コンポーネントを利用するサプライヤのみならず、エンドユーザに対してもメリットとなります。FDTグループは、常に相互運用性に焦点を向けていますが、FDT2の共通コンポーネントは、実質的にこれを引き上げます。さらに、フレームの共通コンポーネントは、FDT 1.2.x及びFDT2の両方のDTMをサポートするために下位互換性があります。

FDT2共通コンポーネントは、DTM(デバイス)の開発と同様にフレーム・アプリケーション(ホスト)の開発にも利用可能です。DTMとフレームアプリケーションの共通コンポーネントは、

FDT2仕様との適切な相互運用性とコンプライアンスを確保するために一緒にテストされています。両方のFDT2の共通コンポーネントの認証は、5月に完了する予定です。共通コンポーネントは、ライセンスのためにすぐに利用できます。コンタクト先：DTM共通コンポーネントはinfo@fdtgroup.com、フレーム共通コンポーネントはinfo@mm-software.com(日本窓口：株式会社NSD：ia-info@nsd.co.jp)です。

6. FDT インド支部発足

FDTグループはインドにおけるFDTグループの拠点、FDTインド支部の開設を発表しました。FDTインド支部は10のファクトリーオートメーション及びプロセスオートメーションのサプライヤからの要望により開設されることとなり、2012年の5月に正式な法的、登録プロセスを完了する予定です。FDTインド支部はバンガロールにおけるFDT2の開発者向けワークショップ、エンドユーザ向けイベントなどの今後の活動計画の策定に取り組んでいます。

以下の8社の会員企業がドイツ支部において先導的な役割を担っています。

Dearborn Electronics、フローサーブ、ハネウェル、ピーアンドエフ、シュナイダーエレクトリック、Utthunga、Vega、横河電機

7. FDTグループとOPCファウンデーションによる相互運用性デモ

FDTグループとOPCファウンデーションは2011年の4月に着手されたFDTとOPC UAの相互運用性を提供する共同プロジェクトにおける、最初のパブリックデモンストレーションを2011年のSPS/IPC/DRIVESフェアで行ったことを発表しました。この共同プロジェクトの目標は、FDT2がリリースされた時点で、この相互運用性が確保されていることです。

“私は共同技術チームの進捗状況に大変満足しています” OPC ファンデーションの Thomas Burke は述べます。“OPC UA の柔軟性により、FDT2 の仕様に手を加えることなく、この重要なコラボレーションの実現可能性を示す、プロトタイプを提供が迅速に出来たことを喜ばしく感じています。完成は 2012 年の早い段階になると考えています。”

FDT グループのマネージングディレクター、Glenn Schulz は認めています。“このプロジェクトの興味深いところは、多くの会社がこのプロジェクトの共同チームに参画していることが即座に分かることです。このプロトタイプの実演は市場が探し求めている 2 つの幅広い工業規格のより深い融和を示しています。この可能性が新しい仕様、FDT2 と共に供給されるでしょう。”

この 2 つの組織のパートナーシップは、ベンダーが彼らの製品に即座に展開できる的確な仕様及び技術を提供するという、多くのベンダー及びコンソーシアムの共同作業の重要性をとてクリアに指し示しています。そしてこのソリューションはサプライヤにとってもエンドユーザーにとっても相互運用性と情報の融合における解法となるでしょう。

8. 全テストセンターの第三者機関による監査終了

FDT グループは、全ての稼働中の独立した FDT の認証を行うテストセンターに対する第三者機関による監査が完了したことを発表しました。

デバイスとネットワークの相互運用性のために数万に上る機器に FDT スタンドアードが展開されています。この高水準の普及は、製品が IEC62453 および ISA103 として知られる FDT 標準に適合しているかどうかをテストする独立したテストセンターのネットワークがサポートしてきたものによるものです。厳密なテストプロセスに合格した製品には、FDT の認定ロゴが与えられ、また FDT の Web サイト上に認定製品として掲載されます。

“FDT スタンドアードの目的は、価値の高い診断情報とコンフィギュレーション情報を公開し、デバイスとネットワークの相互運用性を提供することです。 FDT スタンドアードを展開している我々の組織は、顧客が購入した製品が完全に FDT に準拠していることを追求しています。“FDT グループのマネージングディレクター、Glenn Schulz は述べています。” 全てのテストセンターは、そのテスト内容と手順が定期的に監査されなければなりません。そして今回の全ての監査の完了を祝福します。”

以下のテストセンターが FDT グループにより認定されています。

- BIS Prozesstechnik (Frankfurt, ドイツ)
- Endress+Hauser (Reinach, スイス)
- ifak System (Magdeburg, ドイツ)
- M&M Software (St. Georgen, ドイツ)
- M&M Software (蘇州, 中国)
- Schneider Electric (Seligenstadt, ドイツ)
- Sensor Integration and Technology Testing Center (Ohio, アメリカ)
- 横河電機 (シンガポール)